

フジコー技報第20号によせて

感染制御における KRICT の活動

NPO 法人「KRICT」理事長
産業医科大学 教授

松本 哲朗

Tetsuro Matsumoto



人類の歴史は、感染症との闘いであったと言っても過言ではありません。古くから伝染病により多くの人命が奪われてきました。ジェンナーの種痘に始まったワクチンと共に、フレミングによるペニシリンに始まる抗菌薬の登場は、多くの感染症から人類を救ってきました。一時的には、感染症は克服され、新しい薬剤やワクチンなどの開発は必要ないのではないかと考えられてきました。しかしながら、一昨年の新型インフルエンザの流行や高病原性鳥インフルエンザの脅威は、人類に感染症の怖さを再認識させました。

さて、私は医師になって以来、泌尿器科医として診療にあたりると共に、35年以上もの間、感染症の研究や診療、感染症防止活動などに関わってきました。特に、抗菌薬の開発や感染制御活動は、私のライフワークの一つともなっています。その中で、感染制御の活動は、北九州地域を中心とする地域の活動として行っています。地域の感染制御活動は、ボランティア活動として行っています。NPO 法人「北九州地域感染制御チーム (KRICT)」と称し、10年以上の活動歴を有しています。

ところで、感染制御という言葉は、耳慣れない言葉だと思います。感染症の防止、特に、病院や施設などでの集団感染を防止する方法の研究・実践を行う学問体系を感染制御学と言い、科学的根拠に基づいた感染防止を研究する学問です。感染制御は、学問に基づいた活動全体を指すことがと理解してよい

と思います。似たような言葉として、感染管理や感染防止活動などがありますが、厳密な区別はありません。感染症の予防に取り組み、一旦、感染症が蔓延した時には、早急に解決する活動などを含んでいます。

新聞やテレビなどマスコミの報道には、多くの医療施設内での感染事例が登場しています。医療施設における医療安全対策の中での感染制御の重要性は、計り知れません。さらに、メチシリン耐性ブドウ球菌 (MRSA)、バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE)、多剤耐性緑膿菌 (MDRP) などの抗菌薬に対する耐性菌は、日増しに増加しています。ごく最近では、多剤耐性アシネトバクター・バウマニの病院内感染例の報告もありました。このような耐性菌は、一施設の活動のみでは防ぐことができず、地域全体で考えていかなければなりません。そこで、KRICT を10年前に立ち上げ、活動を行っています。

本年4月には、地域における感染制御活動についての保険点数が設定され、大幅な改定となっています。我々の長年の活動が認められた形となりました。KRICT は、平成13年に医師、看護師、臨床検査技師、微生物学者、薬剤師などを含んだボランティア組織として結成し、平成15年12月にNPO 法人の認可を福岡県から受けました。NPO 法人の認可にあたり、12人の理事・監事を任命し、実働部隊の中心となりました。すべての役員がそれぞれの医療機関や研究組織に所属しているため、KRICT とし

での主な活動は、就業時間終了後となります。現在では、理事・監事以外に、幹事と支部長などを任命し、ボランティアとして活躍して頂いています。

会員は3種類あり。個人会員、施設会員、賛助会員です。現在、個人会員89名、施設会員109施設となりました。個人会員は、講習会・講演会で情報を得るほか、KRICT ニュースやホームページまたはメールで情報を得ることもできます。施設会員はニュースやホームページによる情報収集の他、常時感染制御に関する質問をすることができ、回答をKRICT から速やかに受けることができます。また、ボランティアが施設へ出かけ、技術指導や施設のラウンドなどを行っています。

このような活動で最も重要な点は、施設における感染症の集団発生時の緊急対応です。施設からの依頼に応じ、緊急に対応し、問題解決を図っています。さらに、種々の施設における教育活動にも、講師や助言者として出向いています。

KRICT の特徴は、現場へ出かけて、現場の意見を聞くとともに、一緒に問題を解決する「現場主義」です。この作業には、多くの時間と労力を必要とするが、最も重要なことと感じています。この他、教育・啓発活動としての講演会・講習会の開催、ガイドブックやビデオの作成と販売、薬剤耐性菌のサーベイランス事業、行政主催の病院感染対策講習会への講師派遣や北九州感染症対策支援ネットワークへの協力などの事業を行っています。

特に、北九州市との連携による地域感染対策ネットワーク事業は、その中核をKRICT が担い、地域感染制御ネットワークの中心となっています。このように行政や色んな組織体と綿密な連携を保ちながら活動しています。

しかし、我々の独立性を維持するため、NPO 法人となりました。行政やいくつかの組織体から資金的な援助を頂いていますが、そのような組織の完全なコントロール下に入らず、自らの立場を維持していることが重要と思っております。その理由は、種々の施設から安心して相談して頂き、我々独自の考えで、会員の利益に繋がり、引いては患者さんや市民に安心して頂けるようにするためです。

地域において、全ての医療関連施設を取り込んだ地域感染制御ネットワークが必要であり、このネットワークを有効に活用することが、病院感染や種々の感染症の流行を防止する方法の一つとして、重要です。その為には、人的資源の確保、財政基盤の強化、教育活動の充実、サーベイランスの拡充とそれに基づく応用、アウトブレイクへの即時対応体制の強化など、課題も多いと思います。色んな組織との連携を図り、医療従事者のみではなく、広く一般市民にも理解を得て、市民運動として育てていきたいと考えております。

【履歴書】

まつもと てつろう

松本 哲朗

昭和24年5月3日生

【学 歴】

昭和50年3月 熊本大学医学部卒業

昭和56年3月 九州大学大学院博士課程 修了

【略 歴】

昭和50年6月 福岡大学医学部附属病院研修医（泌尿器科）

昭和51年4月 九州大学医学部附属病院研修医（泌尿器科）

昭和56年4月 九州大学医学部助手

昭和57年4月 国立別府病院泌尿器科医員

昭和58年4月 同上 医長

昭和59年4月 九州大学医学部泌尿器科助手

昭和59年10月 同上 講師

昭和61年5月 ベルギー・ブリュッセル自由大学
ジュール・ボルデー研究所留学

昭和62年4月 九州大学泌尿器科帰学

平成9年6月1日 産業医科大学泌尿器科教授

平成23年4月1日～ 副学長、病院長

【兼 任】

NPO 法人「KRICT（北九州地域感染制御チーム）」理事長

NPO 法人「CREC ネット」副理事長

NPO 法人「JASMIN」副理事長

【所属学会】

国内学会：公益社団法人日本化学療法学会（理事）日本性感染症学会（常任理事）他

国際学会：国際化学療法学会（Executive Director）、アジアUTI/STI学会（President）、
西太平洋化学療法学会（Honorary Treasurer）他

【認定医】

日本泌尿器科学会（専門医、指導医）、日本臨床薬理学会（特別認定医）、

日本化学療法学会（臨床試験指導者）、Infection Control Doctor; ICD、日本性感染症学会（認定医）

【学会賞】

第3回日本化学療法学会研究奨励賞、第5回ヨーロッパ臨床微生物学会ベストアブストラクト賞